

「酪農家が耕作放棄地を花畑に変える」食育授業

令和3年11月16日（火）、11月19日（金）の2日間、伊勢原産牛乳プロジェクト（以下、牛乳プロジェクト）では、伊勢原市立高部屋小学校の5年生（67名）の総合学習授業を行いました。授業は「酪農家が耕作放棄地を花畑に変える」というテーマで、座学と実習により行われました。

16日の授業は小学校体育館で、コロナ対策（換気、距離、アルコール消毒）を実施した上で、酪農業を知ってもらうための座学を行いました。座学前半は、まず始めに牛乳プロジェクトの一員である神奈川大学経営学科の学生による酪農クイズと、当所職員がクイズ形式で県内の酪農と牛乳メーカーの現状を、児童に興味を持ってもらえるように説明しました。その後、牛乳プロジェクトリーダーで市内酪農家の荒井新吾さんが、「酪農家の1日」「牛の一生」「牛の体と餌」など、テーマごとの食育タペストリーを使って分かりやすく説明しました。荒井さんに対する質疑応答コーナーでは、次々と児童の手が上がり「酪農は儲かる商売ですか？」「雄牛が生まれたらどうするのですか？」など現実的な質問もありました。荒井さんは子供たちにも分かりやすい丁寧な回答をされたこともあり、休み時間には子供たちに囲まれて、さらに質問を受けていました。

座学後半は、なぜ酪農家が耕作放棄地を花畑に変える仕事に取り組んだのかについて、神奈川大学の学生がストーリー仕立てのクイズで説明し、伊勢原市畜産会酪農部会の協力を得て農業機械を使用して行った、モアによる雑草の刈り取りやロータリーで耕運する作業の映像を流しました。その後、伊勢原市農業振興課より市内の耕作放棄地の現状や、市の農業と酪農業の果たす役割が説明されました。これを受けて、荒井さんから、なぜ地元の酪農家たちが耕作放棄地をきちんとした畑に変えようと思ったのかという経緯や、自分たちの持っている知識・技術を生かして地域貢献したい、という想いが伝えられました。最後に、タカナシ乳業（株）から提供された「いせはら地ミルク」を児童に飲んでもらい座学を終了しました。

19日の授業は、畑で花の種をまく実習を行いました。荒井さんが大型トラクターで登場した後、作業の段取りを児童に説明し、菜の花の種まき作業を行いました。

耕作放棄地に時間をかけて草刈りと耕耘整地して準備を進めた約20aの畑での作業は、1クラス8班合計16班に分かれて、畑に引かれた各班ごとのラインに、菜の花の種まきを行いました。児童は座学のとき以上に目を輝かせ、生き生きと種まきや雑草の根っこ取りなどを行い、種のまき方は、児童一人一人に個性があり印象的でした。花の成長を観察しながら、春には畑が花いっぱいになることが今から楽しみです。高部屋小学校の校歌には、「菜の花つづく 丘の道」「乳とる牛も よく肥れ」という歌詞があり、校歌を实践する形の授業となりました。最後に児童から荒井さんに校歌を歌ってお礼をするという場面もあり、荒井さんの母校でもあるため、荒井さんも一緒に校歌を歌う、和やかな雰囲気の中かで授業は終了となりました。

プロジェクトメンバーや伊勢原市畜産会酪農部会による入念な事前準備により、市内の農業の様子や酪農家の想いを伝えることができました。当所では、こうした生産者団体等による食育活動を引き続き支援してまいります。



耕運作業後の伊勢原市畜産会
酪農部会メンバー



酪農クイズに積極的に手を挙
げる児童たち



牛乳を配布する荒井さん



種まきと鎮圧を一緒になっ
て仲良く実施



伊勢原産牛乳プロジェクトメンバー



各班の自作プレート設置

備考

伊勢原産牛乳プロジェクトは、伊勢原産牛乳の販売を通じて、地産池消、地域活性化を推進し、地域住民の健康で幸せな暮らしに貢献するとともに、県内酪農の発展に寄与することを目的に活動している伊勢原の酪農家を中心としたプロジェクトです。この活動は、伊勢原市民、伊勢原市、神奈川県などが支援しています。

神奈川大学経営学科の学生は大学の地域プロジェクト授業の一環で牛乳プロジェクト一員として参加しています。